

## 「青森県ボールパーク整備基本計画」(案)に寄せられた意見とそれに対する県の考え方

No	ページ	意見	意見に対する県の考え方	提出意見の反映状況
1	－	<p>青森市への県営野球場と県営スケート場の建設に強く反対します。</p> <p>津軽地方には弘前市運動公園野球場というプロ1軍の試合に対応した野球場があり、弘南鉄道にとっては観客輸送は大きな収入源になっています。</p> <p>青森市にプロ1軍の試合に対応した野球場ができれば弘前市運動公園野球場でプロ1軍の試合が行われなくなる可能性は高いです。</p> <p>青森県でプロ1軍の試合が行われるように尽力してきた弘前市民に失礼です。津軽地方はスケートが盛んではなく、必要なのはアルペンスキーなどで世界に通用するスキー選手を育てる環境です。</p> <p>県営野球場と県営スケート場は、県の施設が少ない三八上北地方に建設すべきです。</p>	<p>野球場については、現在の県営野球場の老朽化が著しいことを踏まえ、新たに整備を進めるものです。</p> <p>整備場所については、アクセス面や駐車場を含む敷地面積、周辺施設等との相乗効果などを勘案し、青森市安田の青森県総合運動公園として計画しています。</p> <p>令和7年3月に取りまとめられた「ボールパーク整備検討会議報告書」では、野球場の役割、機能として「公認野球規則に則り、プロ野球公式戦にも対応できるグラウンドの整備」や「高稼働率を実現可能にする人工芝グラウンドの整備」などが挙げられており、基本計画にもその内容を反映させました。県としては、プロ野球興行が可能な球場が複数あることは、開催試合数の増加につながるなどの効果が期待できるものと考えています。</p> <p>スケート場は、これまで冬季のスポーツ振興や県民の健康保持増進に大きな役割を果たしています。ボールパーク内に複合施設として一体で整備することにより、冬季の利用促進と賑わいの創出が期待でき、施設の相乗効果が見込まれると考えております。</p>	その他
2	－	<p>このボールパークができることによる、弘前市やはるか夢球場への影響について懸念しております。弘前市はこれまで、はるか夢球場を改修し、プロ野球の開催が定着してきました。しかし、新ボールパーク(プロ対応1.5万人規模)が完成すれば、球団の地方開催枠に限られる中、はるか夢球場のプロ試合が減る、なくなる可能性が強く懸念されます。県議会でも同様の指摘があり、県側は「相乗効果を発揮できるよう弘前市と連携を図る」と答弁されていますが、基本計画(案)では具体的な連携策が示されていません。そもそも日本プロ野球の地方開催は、全体で年20～30試合程度で、年2回以上開催の県・球場は極めて少数で、年1回が標準です。そのような状況で青森県では、はるか夢球場での2026年にセ・パ両リーグで年2試合の開催予定を実現しております。長らくプロ野球開催ができなかった青森県において、弘前市のはるか夢球場改修はとても意義のあるものですが、県施設が青森市に集中する現状で、県が競合施設を青森市に作るの、県民全体の税金の使い方として整合性が取れないと感じます。県として整合性を保つために、プロ野球の開催については、はるか夢球場の充実を支援(改修補助など)し、新球場は天然芝で高校野球等のアマチュアに使いやすい規模にするなど、別路線の球場とするのが、競合を防ぐ整合性のあるやり方になると思います。</p>	<p>整備場所については、アクセス面や駐車場を含む敷地面積、周辺施設等との相乗効果などを勘案し、青森市安田の青森県総合運動公園として計画しています。</p> <p>令和7年3月に取りまとめられた「ボールパーク整備検討会議報告書」では、野球場の役割、機能として「公認野球規則に則り、プロ野球公式戦にも対応できるグラウンドの整備」や「高稼働率を実現可能にする人工芝グラウンドの整備」などが挙げられており、基本計画にもその内容を反映させました。県としては、プロ野球興行が可能な球場が複数あることは、開催試合数の増加につながるなどの効果が期待できるものと考えています。プロ野球興行が可能な球場が複数あることが県の魅力となるよう、施設整備に向けた検討と併せて、関係市町村との具体的な連携について検討を進めてまいります。</p>	その他

## 「青森県ボールパーク整備基本計画」（案）に寄せられた意見とそれに対する県の考え方

No	ページ	意見	意見に対する県の考え方	提出意見の反映状況
3	－	<p>ボールパークについて、地域の身近な施設とするなら、京都のサンガスタジアムのような幼稚園、今治の里山スタジアムのような福祉施設や放課後デイサービスの併設をお勧めします。</p> <p>また今治のようにスタジアムにぶどうの木を植樹してワインをつくる前例があるので、りんごの木を植樹したり、田んぼや畑のスペースで収穫を体験する場を設けたり、美術館のお客さんもとりこめるようなカフェや直売所をつくってみてはどうかと考えます。</p> <p>営利も目的とするなら、スケート場にはコンサートが行える規格が必要ですし、岩手のオガールのような宿泊施設とバーも必要と考えます。</p> <p>さらに、キッズルームや屋外の遊具、わくわくランドのような水遊び場は最低限必要だと考えます。青森市のアリーナが賑わってるように、子どもの遊び場があるから、親も集まり、賑わい創出エリアで行うイベントにも集まると考えます。キッズルームでなくても、高槻の安満遺跡公園のように民間のポーネランドを誘致してもいいと考えます。</p> <p>また若者が楽しめるような施設としてソフト面を考えると、小学生対象のスポーツ体験会や芝生の開放デーなどつくってほしいです。子どもの文化スポーツの機会が少ないため、協会や団体、プロスポーツクラブを交えて行っていただきたいと考えます。</p> <p>またパブリックビューイングができる施設もつくっていただきたいです。放映権の予算もありますが、みんなで1つになって応援する場を作っていただきたいと考えます。</p> <p>さらにオガールのように酒のマルシェも必要だと考えます。美術館の観光客も取り込めるように共同して告知をして、集客をしていただきたいと考えます。</p>	<p>ご提示の施設等の取組も参考に、今後のPFIによる整備の中で「季節に応じて日常的に集い楽しめるボールパーク」を実現するよう、検討を続けてまいります。</p>	<p>実施段階 検討</p>